

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-1357

(43)公開日 平成6年(1994)1月11日

(51)IntCl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	FI	技術表示箇所
B 6 5 D 33/00	C	9256-3E		
65/28		9028-3E		
81/28	C	9028-3E		

審査請求 未請求 請求項の数2(全 3 頁)

(21)出願番号 特願平4-162446

(22)出願日 平成4年(1992)6月22日

(71)出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72)発明者 山崎 英明

神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目3番1

号 松下通信工業株式会社内

(72)発明者 内藤 美久

神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目3番1

号 松下通信工業株式会社内

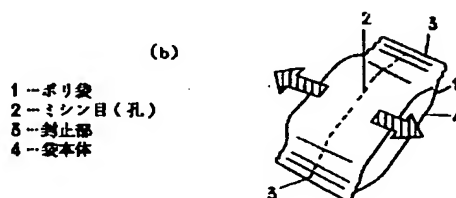
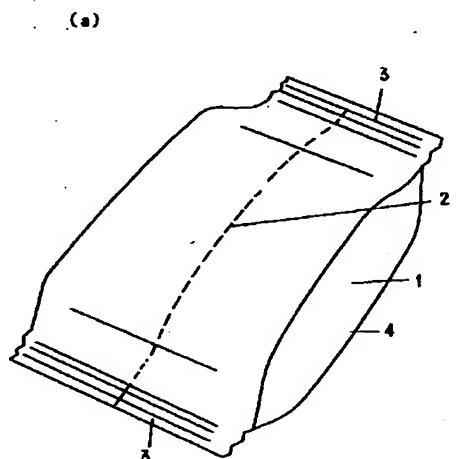
(74)代理人 弁理士 小鍛冶 明 (外2名)

(54)【発明の名称】 包装用袋

(57)【要約】

【目的】 包装用袋にミシン目を設けて空気の入りを可能とし、結露等による内容物のダメージを防ぐとともに、袋本体の簡単な開封を実現する。

【構成】 包装用袋1にミシン目2を設けて、外部環境との空気の入りを可能とし、外部環境の変化による結露等が生じないので、内容物へダメージを与えることが無い。また、ミシン目2に沿って引き裂くことで、袋本体4を簡単に開封できる。さらに、ミシン目2を入れるだけの方法なので、安価に多量に実現できる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 袋本体に孔を所定の間隔をおいて多数形成したことを特徴とする包装用袋。

【請求項2】 孔がミシン目である請求項1記載の包装用袋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明はポリエチレン製または塩化ビニール製の包装用袋に関する。

【0002】

【従来の技術】図3(a)は従来の包装用袋を示している。11は袋本体であり、気密性を有するので外部環境から、内容物を遮断することができる。13は乾燥剤であり、内容物と同時に袋本体11内に封入した空気中の湿気を吸収するものであるが、必要に応じて脱酸素剤等を封入することもある。12は開封用の波形端面であり、内容物を取り出す際は、図3(b)に示す矢印の向きに、波形の凹部分を引き裂くように開封する。

【0003】図4(a)も従来の包装用袋を示しており、内容物を取り出す際は、図4(b)に示すように、貼合せ部分14と対面する袋本体11の一部分をつまんで矢印の向きに引っ張り開封する。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来の包装用袋では、気密性を有するため、内容物と同時に袋内に封入した空気中の湿気が、外部環境の変化に対応して結露等を引き起こし、内容物へダメージを与えるという問題があった。また、封入した空気への処置の為に乾燥剤等を封入することは、コストアップの要因となる問題があった。さらに、包装用袋の開封の簡便を計る目的で波形端面を設けたり、貼合せ部分等を設けることは、設備のコストアップの要因となる問題があった。

【0005】本発明は上記の問題点を解消しようとするものであり、袋本体内部に空気の出入りを可能にして結露等による内容物のダメージを防ぐとともに、袋本体の簡単な開封を実現する包装用袋を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は、上記目的を達成するために、包装用袋に孔(ミシン目)を設けて、外部環境との空気の出入りを可能としたものであり、またこの孔を用いて、包装用袋の簡便な開封を可能としたものである。

【0007】

【作用】したがって、本発明によれば、包装用袋に孔を設けたことにより、外部環境との空気の出入りが可能となり、外部環境が変化しても袋本体内部の空気が外部環境と同一になるので、結露等による内容物のダメージがなくなる。さらに、袋本体の孔に沿って引き裂けば、簡単に包装用袋を開封できる。しかも、孔を入れるだけの

2

方法なので、極めて安価に多量に実現することが可能となる。なお、孔の代わりにミシン目をあけても良い。

【0008】

【実施例】以下、本発明の実施例を図1および図2に基づいて説明する。図1(a)は本発明の一実施例の包装用袋の斜視図、図1(b)は同包装用袋における開封方法の説明図である。図1中1はポリエチレン製、塩化ビニール製の包装用袋である。この包装用袋1の袋本体4の両端には封止部3があり、袋本体4には孔であるミシン目2が形成されている。なお、このミシン目2は縦方向に形成してあるが横でも斜めでも良く、筒状の断面をもつ。

【0009】袋用ロールへ、あらかじめミシン目を入れれば、作業効率が向上する。ミシン目2は空気が充分出入りできるような大きさ、または数を有している。

【0010】内容物を取り出す際には、図1(b)に示す矢印の向きに引き裂くように開封する。

【0011】図2(a)は本発明の第2の実施例を示し、ミシン目2を袋本体4の封止部3の近傍へ設けることによって、内容物を封入する工程と同時に、または後工程でもミシン目2を打つことが可能となる。

【0012】図2(b)は第2の実施例の包装用袋1を開封する方法を示したものであり、ミシン目2に沿って矢印方向に引き裂くことで開封できる。

【0013】

【発明の効果】本発明は上記実施例より明らかなように、袋本体に孔を所定の間隔をおいて多数形成したことによって、外部環境との空気の出入りを可能としているため、外部環境の変化によってよる結露等が発生しないので、内容物にダメージを与えることが無い。また、孔に沿って引き裂けば、袋本体を開封できるので、簡便に内容物を取り出すことができる。更に袋本体に孔(ミシン目)を入れるだけの方法なので、極めて安価に多量に実現することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】(a)は本発明の一実施例の包装用袋の斜視図 (b)は本発明の一実施例における開封方法を示す説明図

【図2】(a)は本発明の他の実施例の包装用袋の斜視図 (b)は本発明の他の実施例における開封方法を示す説明図

【図3】(a)は従来の包装用袋の斜視図 (b)は従来の包装用袋における開封方法を示す説明図

【図4】(a)は従来の包装用袋の斜視図 (b)は従来の包装用袋における開封方法を示す説明図

【符号の説明】

1 包装用袋

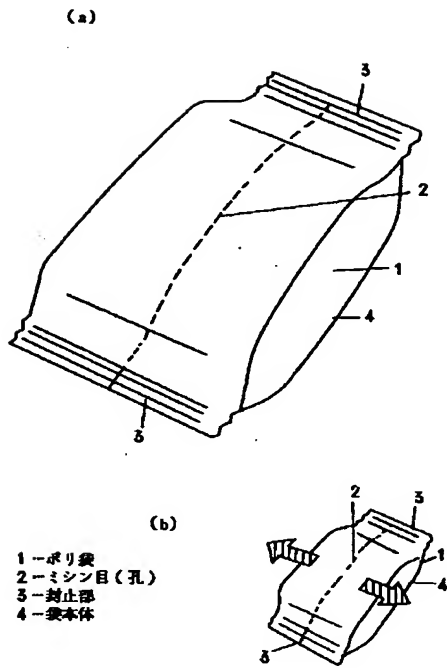
2 ミシン目(孔)

3 封止部

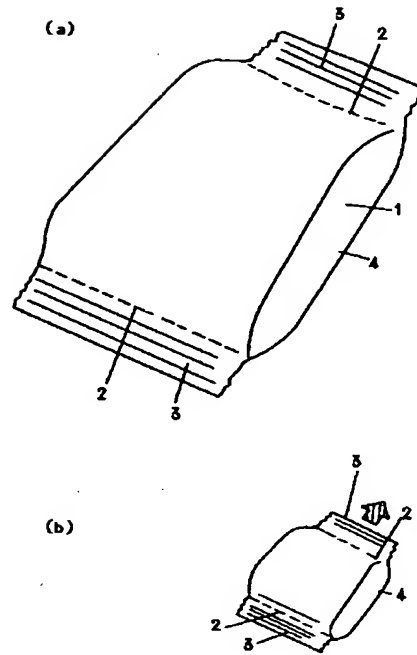
50

4 袋本体

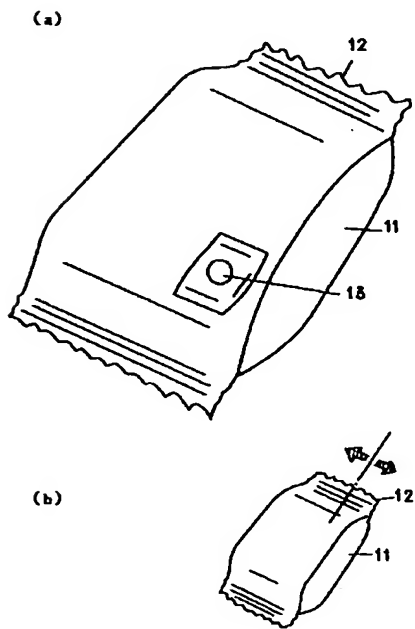
【図1】



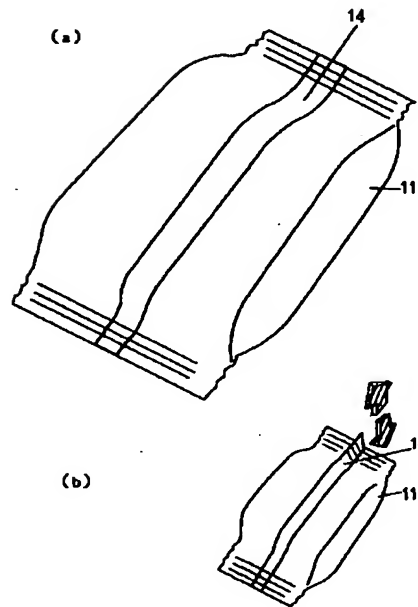
【図2】



【図3】



【図4】



PAT-NO: JP406001357A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 06001357 A
TITLE: PACKAGING BAG
PUBN-DATE: January 11, 1994

INVENTOR-INFORMATION:

NAME
YAMAZAKI, HIDEAKI
NAITO, YOSHIHISA

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD	N/A

APPL-NO: JP04162446

APPL-DATE: June 22, 1992

INT-CL (IPC): B65D033/00, B65D065/28 , B65D081/26

US-CL-CURRENT: 383/103, 383/207

ABSTRACT:

PURPOSE: To prevent a content from being damaged by moisture condensation, etc., and open the bag main body easily by making it possible for air to enter/go out by providing a perforation on a packaging bag.

CONSTITUTION: A perforation 2 is provided on a packaging bag 1 to make it possible for air to enter/go out between the inside of the bag and outside environment, and therefore, moisture condensation, etc., due to the change of the outside environment does not develop, and the content is not damaged. Also, by tearing the packaging bag along the perforation 2, a bag main body 4 can be easily opened. In addition, by simply applying the perforation 2, the

packaging bag can be embodied at a low cost by a large quantity.

COPYRIGHT: (C)1994,JPO&Japio